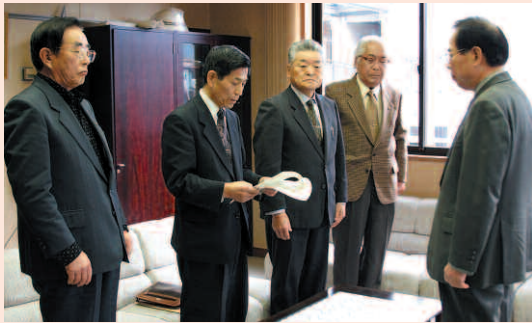


地域審議会が市の基本構想について答申



▲各地域審議会の会長から答申を受ける牧田市長(右)

旧4町村ごとにある地域審議会が12月22日、牧田市長に美馬市総合計画の基本構想について答申をいたしました。市は、今後のまちづくりの基本的な方針を示す「美馬市総合計画」の策定にあたり、「地域住民の声を十分に盛り込もう」と、11月に開かれた各地域審議会の基本構想について諮問をしていました。

同日、各地区の審議会長4人(脇町:佐藤一夫氏、美馬町:逢坂道幸氏、穴吹町:緒方勝義氏、木屋平:経塚和義氏)が出席し、それぞれの審議会ですた意見や提言をまとめた答申書を市長に手渡しました。各会長は「地

域の実情を盛り込んだ付帯意見を、ぜひ考慮していただきたい」と要望。市長は「地域の意見として、総合計画策定に可能なかぎり反映してまいりたい」と応えました。

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3つの段階で構成され、今後、再調整した基本構想案と基本計画案について、県内の大学教授等の学識経験者や各種団体の代表者、公募委員でつくる同計画策定審議会に諮問し、今年度中の策定を目指します。

市民とともに福祉のあり方を考える 地域福祉計画 ワークショップ



▲市民ら約50人が参加したワークショップ

市が地域福祉計画を策定するにあたって、公募選考された市民の皆さんや各種団体の関係者ら約50人と意見交換をしてきた「ワークショップ」。昨年11月までに3回開催、貴重な意見や提言をいただきました。

「ワークショップって何だろう」と戸惑う参加者もいた中で、初回は福祉分野の現状を把握するために、「児童福祉」「高齢福祉」「障害福祉」の3つのグループに分かれ、参加者からの意見を基に美馬市の良いところ、困ったところ、残したいところなどを書き出しました。「いきいきサロン活動」や「ステッカーを付けた車での地域見守り活動」、「自主防災組織の立ち上げ」など多くの良いところがあげられた一方で、「地域で子どもをあまり見なくなった」、「高齢者の外出支援があればいいのに」、「障害者自立支援法ができてサービスが受けられなくなるのでは」など、不安に思っていることもあげられました。

2回目は現状の中での問題点について、3回目は問題解決について、それぞれ議論を重ね、「子どもたちへの笑顔が大事」、「家庭、地域、キーマン」、「場・人・つながり」などの意見を集約しました。

ワークショップでの意見は、地域福祉計画策定懇話会で提案し、地域福祉計画の策定に反映していきます。